

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6596513号

(P6596513)

(45) 発行日 令和1年10月23日(2019. 10. 23)

(24) 登録日 令和1年10月4日(2019.10.4)

(51) Int.Cl.

A 4 4 C 25/00 (2006.01)

F I

A 4 4 C 25/00

B

請求項の数 3 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2017-558754 (P2017-558754)	(73) 特許権者	396013433 美馬貴石株式会社 山梨県甲府市青沼1丁目13番13号
(86) (22) 出願日	平成29年7月14日(2017.7.14)	(74) 代理人	100081293 弁理士 小林 哲男
(86) 国際出願番号	PCT/JP2017/025703	(72) 発明者	井口 泰宏 山梨県甲府市青沼1丁目13-13 美馬 貴石株式会社内
(87) 国際公開番号	W02018/189918	審査官	高田 基史
(87) 国際公開日	平成30年10月18日(2018.10.18)	(56) 参考文献	登録実用新案第3041020(JP, U) 特開2001-224412(JP, A)
審査請求日	平成31年4月22日(2019.4.22)		最終頁に続く
(31) 優先権主張番号	特願2017-77500 (P2017-77500)		
(32) 優先日	平成29年4月10日(2017.4.10)		
(33) 優先権主張国・地域又は機関	日本国(JP)		
早期審査対象出願			

(54) 【発明の名称】 装身具用留め具とこれを用いた装身具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

長尺のチェーン又は紐状の装身具本体の適宜位置を挾持させる装身具用留め具であって、上側を開口させた上向きU字形状の固定側の保持具と、この保持具の一端側に開口部を有する略鉤型の円弧状曲面を有する下向き断面U字形状の保持部と、下側を開口させた下向き断面U字形状の可動側の閉止部材と、この閉止部材の内側に包囲された状態で嵌め込まれた摩擦抵抗を有するシリコン或はゴム製の軟性部材と、この軟性部材を前記閉止部材の先端側から突出させた状態の凸状円弧部と、前記保持具の他端部とこの保持具の内側に収容させた閉止部材の端部とを回動自在に軸着するための軸着部と、この軸着部に装着して前記閉止部材を前記保持部側方向に向けて弾発付勢させたバネとを備え、前記閉止部材の先端が前記保持部の内側方向に向けて弾発付勢された状態で前記保持部の内周に収容されると共に、前記保持部の下部と前記凸状円弧部との間に装身具本体を挾持させるための挾持空間を設けたことを特徴とする装身具用留め具。

【請求項2】

前記軟性部材は、扁平形状に形成され、この扁平形状の軟性部材が下向き断面U字形状の前記閉止部材の内側に包囲された状態で嵌め込まれた請求項1に記載の装身具用留め具。

【請求項3】

請求項1又は2に記載の装身具用留め具が、チェーン又は紐状の装身具本体の一端側に設けられていることを特徴とする装身具用留め具を用いた装身具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ネックレスなどの装身具を身体に装着する際に環状に係止するための装身具用留め具に関し、特に、留め位置を調節しながら長尺のチェーン状の装身具を身体に装着できる装身具用留め具とこれを用いた装身具に関する。

【背景技術】

【0002】

一般に、ネックレスの留め具には、チェーンの両端部に止め輪を介して孔のあいたプレートと引き輪を連結し、更にチェーンにスライドパーツを設けたものが普及している。また、この種の留め位置を調節可能な装身具として、特許文献1の装飾具が開示されている。この装飾具は、ネックレスの装飾チェーン用の装身具であり、装飾体の中に弾力性を有する樹脂材料からなる筒体が設けられている。筒体の小孔は、装飾チェーンの直径よりも小さく設けられ、この構造により、装飾チェーンの端部が筒体に挿入され、この筒体に対して装飾チェーンに係止状態で摺動可能に設けられ、その係止位置が変えられて装着時の留め位置が調節される。

10

【0003】

特許文献2の装身具用の留め具は、表面に装飾を有する装飾部材本体を有し、この装飾部材本体には、互いに係合する第1、第2の係合部材が設けられている。第2の係合部材は、第1の係合部材に支点を中心に回動可能に設けられ、一方の係合部材に磁石、他方の係合部材に磁石または金属部材が設けられている。この構造により、係合部材同士が係合可能に設けられ、係合部材同士の空間部に長尺状の装身具本体が留め位置が調節可能な状態で留められる。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開平10-295421号公報

【特許文献2】実用新案登録第3132896号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0005】

しかしながら、一般に普及している止め輪と孔のあいたプレートとスライドパーツからなるネックレスの留め具は、引き輪のピンを引いた状態でプレートの孔に引き輪のピンを挿入し、しかも、チェーンのスライドパーツを調節してチェーンの環状輪を調節しなければならない、極めて面倒な留め具の作業を強いられ、特に、高齢者のネックレスの使用に際して、これらの点が重大な課題点であり、これらを解消したネックレスの留め具の開発が熱望されている。また、特許文献1の装飾具においては、装飾チェーンの筒体への挿脱によりこれらが係止可能に設けられ、これを満足するために筒体の小孔が装飾チェーンの直径よりも小さく設けられている。そのため、着脱に手間がかかり、ワンタッチで装着することができない。さらに、樹脂材料の筒体に装飾チェーンを繰り返し挿脱して摺動させると筒体の消耗が激しくなり、これによって、係止力が弱くなったり装飾チェーンが傷付く可能性も生じる。所定の係止力を得るために筒体が長くなったり、この筒体を外部から隠すために装飾体が大型になることにより、装飾チェーンと装飾体とのバランスが失われて全体の装飾性も低下していた。

40

【0006】

特許文献2の装身具用の留め具についても、装飾部材本体に係合用の磁石や金属部材が設けられているため、装飾部材本体が大型化してチェーンとの一体性が失われ、装飾性が損なわれていた。この留め具では、装身具本体が真珠のネックレスにより設けられ、この真珠が、係合部材の円弧部で設けられた空間部を通過できない大きさになっていることで留め位置が調節可能になっている。このように、この留め具は係合部材で装身具本体を直

50

接挟着して固定する構造ではないため、装身具本体が細いチェーンの場合には装身具本体との間に緩みが生じることで留め位置がずれて装着性が低下することがあった。

【0007】

本発明は、上記の実情に鑑みて開発に至ったものであり、その目的とするところは、従来の留め具の面倒な取り扱いを一挙に解消したものであり、留め位置を調節しつつワンタッチで長尺状の装身具を容易に身体に着脱可能な装身具用留め具であり、装身具が細いチェーンの場合にも、この装身具を傷付けることなく強く挟持して装着位置を保持することでずれを防止でき、着脱部分をコンパクト化して優れた装飾性を発揮する装身具用留め具とこれを用いた装身具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するため、請求項1に係る発明は、長尺のチェーン又は紐状の装身具本体の適宜位置を挟持させる装身具用留め具であって、上側を開口させた上向きU字形状の固定側の保持具と、この保持具の一端側に開口部を有する略鉤型の円弧状曲面を有する下向き断面U字形状の保持部と、下側を開口させた下向き断面U字形状の可動側の閉止部材と、この閉止部材の内側に包囲された状態で嵌め込まれた摩擦抵抗を有するシリコン或はゴム製の軟性部材と、この軟性部材を閉止部材の先端側から突出させた状態の凸状円弧部と、保持具の他端部とこの保持具の内側に収容させた閉止部材の端部とを回動自在に軸着するための軸着部と、この軸着部に装着して閉止部材を保持部側方向に向けて弾発付勢させたバネとを備え、閉止部材の先端が保持部の内側方向に向けて弾発付勢された状態で保持部の内周に収容されると共に、保持部の下部と凸状円弧部との間に装身具本体を挟持させるための挟持空間を設けた装身具用留め具である。

【0009】

請求項2に係る発明は、軟性部材は、扁平形状に形成され、この扁平形状の軟性部材が下向き断面U字形状の閉止部材の内側に包囲された状態で嵌め込まれた装身具用留め具である。

【0010】

請求項3に係る発明は、装身具用留め具が、チェーン又は紐状の装身具本体の一端側に設けられている装身具用留め具を用いた装身具である。

この場合、装身具本体の他端側に、挟持空間よりも大きい装飾部材が取付けられているとよい。

【発明の効果】

【0015】

請求項1に係る発明によると、従来のネックレスの留め具のような煩わしい取り扱いが全くなく、具体的には、上向きU字形状の固定側の保持具と、保持具の一端側に開口部を有する下向き断面U字形状の保持部と、下向き断面U字形状の閉止部材と、この閉止部材の内側に嵌め込まれた軟性部材と、軟性部材による凸状円弧部と、保持具の他端部と閉止部材の端部とを軸着する軸着部と、閉止部材を保持部側方向に向けて弾発付勢させたバネとを備え、閉止部材の先端が保持部の内側方向に向けて弾発付勢された状態で保持部の内周に収容され、保持部の下部と凸状円弧部との間に装身具本体の挟持空間を設けていることにより、バネの弾発力に抗して保持具、閉止部材を指でつまむように軽い押圧力を加えて挟持空間を開放状態にし、この挟持空間に装身具本体を開口部から落とし込むように装入すれば、装身具本体が閉止部材の曲面部位を滑るようにして保持部の位置までスムーズに到達し、装身具本体を開口部の留め位置まで案内することなく所望の位置にセットできる。この状態で保持具、閉止部材から指を離して押圧力を解除すれば、任意の留め位置に調節しつつワンタッチで長尺状の装身具本体を容易に装着可能になる。装着後には、バネの弾発力で挟持空間内において保持部と軟性部材とにより装身具本体を挟持し、装身具本体が細いチェーンの場合にも、この装身具本体を傷付けることなく軟性部材の弾性力及び摩擦抵抗を介して強く挟持し、装身具本体の装着位置を保持してずれや脱落を防止する。保持部と閉止部材との組合わせにより全体を細い長尺状としてチェーンとの一体性を向上

10

20

30

40

50

でき、しかも、装身具本体の挟持後に保持具と閉止部材とが外側に広がることなく、全体の装飾性を保ちながら太さの異なるチェーンにも対応でき、機能美に優れたコンパクトな装身具用留め具を提供できる。特に、本発明によると、従来の留め具で必須なパーツであった引き輪、プレート、スライドパーツが全く不要であり、しかも従来の面倒な作業を必要とせず、極めて簡易にチェーンの自由な位置にワンアクションで容易に留め具で止めることが可能となり、従来に比して極めて商品価値の高い留め具とその装身具を提供することができる。

軟性部材をシリコーン或はゴム製とし、この軟性部材を閉止部材の先端側から突出させて凸状円弧部を設けていることにより、軟性部材を装身具本体に確実に当接させながら挟持でき、軟性部材の摩擦抵抗によりすべりを抑えつつ装身具本体を強固に保持して装着後のずれや脱落を防止し、身体へのフィット性を維持できる。

10

軟性部材を閉止部材の内側に包囲しながら嵌め込んだ構造であるため、閉止部材の成形加工と同時に軟性部材を閉止部材の内側の所定位置に固着できる。

【0017】

請求項2に係る発明によると、プレス加工等により閉止部材を成形加工すると同時にこの閉止部材の内側に軟性部材を装着できるため、部品点数や加工工数を削減しつつ大量生産が可能となる。その際、軟性部材を正確な位置に取付けでき、その取付け後の緩みや脱落も防止し、組立ても容易になる。

【0018】

請求項3に係る発明によると、留め位置を調節しつつワンタッチで装身具本体を簡単に身体に着脱でき、装着後には身体に合わせた装着状態を維持できる。装身具本体に様々な装飾性を付加させたり装身具本体を任意の長さに形成できることで、装飾の幅が広がる。

20

【0019】

この場合、装身具本体の留め具の他端側に挟持空間よりも大きい装飾部材を取付けることにより、仮に、身体への装着後に他端部側に抜け出し方向の力が加わった場合にも、装飾部材が保持具に係止することでその抜け出しを防いで身体からの脱落を防止でき、この装飾部材により装身具としての装飾性が一層高まる。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図1】装身具の実施形態を示す外観図である。

30

【図2】図1の装身具の装着状態を示す外観図である。

【図3】本発明における装身具用留め具の第1実施形態を示す斜視図である。

【図4】図3の装身具用留め具の縦断面図である。

【図5】図3の装身具用留め具の一部省略分離斜視図である。

【図6】本発明における装身具用留め具の第2実施形態を示す外観図である。

【図7】本発明における装身具用留め具の第3実施形態を示す外観図である。

【発明を実施するための形態】

【0023】

以下、本発明における装身具用留め具とこれを用いた装身具の実施形態を図面に基づいて説明する。図1においては、本発明の装身具用留め具を用いた装身具の実施形態、図2においては、装身具の装着状態、図3においては、この装身具に用いられている装身具用留め具を示している。

40

【0024】

本発明における装身具用留め具（以下、留め具本体1という）は、図1、図2に示す長尺のチェーン状のネックレスからなる装身具本体2に取付けられ、この留め具本体1により、装身具本体2が環状に接続されて身体に着脱可能に設けられる。

【0025】

図3～図5において、留め具本体1は、保持具10、軟性部材11、閉止部材12、パネ13が備えられている。

保持具10は、装飾性を有する適宜の貴金属材料や金属材料により、上側を開口させた

50

断面上向きの略U字形状で略鉤型の外観形状に設けられ、装身具本体2を固定する側として設けられる。装身具本体2が装着される一端側には、円弧状曲面を有する下向き断面U字形状の保持部20が形成され、この保持部20の開口側には開口部21が設けられる。

【0026】

開口部21は、保持部20に装身具本体2を着脱可能にこの装身具本体2の太さよりもやや広く形成され、この開口部21を介して、装身具本体2が保持部20に保持可能になっている。保持具10と軟性部材11が装着された閉止部材12との間には、後述の挟持空間Sが設けられ、この挟持空間Sにおいて、軟性部材11を介して装身具本体2が適宜位置で保持部20に挟持される。

【0027】

保持具10には、ゆるやかな曲面を成す曲面端部22が保持部20からつながるように形成され、この曲面端部22を介して開口部21より装身具本体2を保持部20に案内可能になっている。保持具10の曲面端部22との反対側には、中央付近が凹んだ湾曲部23が形成される。また、装身具本体2の取付け側との他端部側には、閉止部材12の開閉方向と交差するように2つの連通孔24、24が形成される。さらに、この連通孔24よりも端部側には、装身具本体2の固着側を取付けるための取付穴25が形成されている。

【0028】

閉止部材12は、図4の正面視において、上面側が曲面状、下面側が湾曲形状であり、保持具の内側（内周）に收容可能な下側を開口させた下向き断面U字形状に形成され、このU字形部分の内側に軟性部材11が取付けられる。閉止部材12の前記連通孔24との対応位置には貫通孔26が形成され、この貫通孔26を連通孔24に連通させた状態で閉止部材12が保持具10に仮着され、これら連通孔24、貫通孔26にピン27が挿入される。ピン27の両端部は、カシメ或はレーザ溶接等により保持具10に固着されることで軸着部28が設けられる。

【0029】

このようにして、閉止部材12は、開口部21との他端側で軸着部28を介して、可動側として保持具10に回転自在に取付けられ、その先端側が開口部21の内側から係止可能になっている。閉止部材12、保持具10を互いにつまむ方向に手動操作により押圧したときには、軸着部28を中心に回転し、閉止部材12先端側の開口部21への係止が外れ、開口部21を開口させることが可能になっている。

保持具10、閉止部材12は、それぞれ、例えば、0.1mm厚の18Kやシルバーなどの薄板状貴金属を材料として、プレス加工等の加工手段で一体成形される。

【0030】

図5の軟性部材11は、摩擦抵抗を有するシリコンにより、板状部30と、この板状部30よりも幅が広い幅広部31とを備えた扁平形状により長尺状に形成される。このように軟性部材11をシリコンで形成することで装身具本体2が食い込むことが可能な硬さになっている。

【0031】

板状部30は、閉止部材12のU字形状の内部に嵌合可能な厚さに形成される。幅広部31は、板状部30の先端側（図4（a）における右側）の表裏面に、閉止部材12の幅と略同じ幅になる厚さに形成される。幅広部31の先端側には、適宜の滑らかな凸状円弧部32が形成され、幅広部31の後端側には、閉止部材12の先端側に係合可能な凹状円弧部33が形成される。

【0032】

軟性部材11は、板状部30が内側に包囲された状態で閉止部材12に嵌め込まれ、凹状円弧部33が閉止部材12先端面に係合し、幅広部31の凸状円弧部32が閉止部材12の先端側から挟持空間Sにやや突出（膨出）した状態で閉止部材12に接着等の手段で装着される。これにより、軟性部材11は、閉止部材12の少なくとも装身具本体2の挟持側から突出するように装着されている。

【0033】

図４のバネ１３は、ねじりコイルばねからなり、コイル部４０と、このコイル部４０を挟んで一端側の自由端部４１と、他端部側の折り曲げ部４２とを有している。バネ１３は、コイル部４０が軸着部２８に装着され、自由端部４１が閉止部材１２の内面に当接され、折り曲げ部４２が軟性部材１１に突き刺された状態で、保持具１０と閉止部材１２との間にこれらを相互に弾発するように装着される。このバネ１３により、閉止部材１２が開口部２１を閉止する方向に付勢される。

【００３４】

具体的には、閉止部材１２は、バネ１３の弾発力で図４（ａ）の保持部２０側の方向である左回転方向に付勢され、通常時には、保持部２０の内側方向に向けて弾発付勢された閉止部材１２の先端側が開口部２１に係止して閉止状態となる。閉止部材１２と保持具１０とを互いにつまんでバネ１３の弾発力に抗して押圧すると、軟性部材１１が保持具１０内周を摺動しながら閉止部材１２が右回転し、図４（ｂ）に示すように開口部２１が開状態となる。

10

【００３５】

挟持空間Ｓは、軟性部材１１と保持部２０との間に、装身具本体２を挟持するための空間として設けられ、この挟持空間Ｓに、装身具本体２がバネ１３の弾発方向に向けて挟持されることで保持可能になっている。具体的には、図４（ａ）の状態から閉止部材１２を保持具１０側に押圧し、図４（ｂ）のように閉止部材１２が保持具１０内に移動したときに、保持部２０と閉止部材１２との間に軟性部材１１を介して挟持空間Ｓが設けられ、この挟持空間Ｓ内の保持部２０に図４（ｃ）の二点鎖線に示すように装身具本体２が装着され、この状態で閉止部材１２と保持具１０との押圧を解除することで、バネ１３の弾発力で装身具本体２が保持部２０の下部と軟性部材１１の凸状円弧部３２との間に挟持される。

20

【００３６】

図１に示す装身具本体２は、金、銀、プラチナ等の貴金属やその他金属材料などにより長尺のチェーン状に形成され、汎用のものが使用可能になっている。装身具本体２は、鎖素子２ａを有し、一端側の鎖素子２ａは、留め具本体１の取付穴２５に取付けられる。他端側の鎖素子２ａには、適宜の装飾性を有する装飾部材５０が取付けられ、この装飾部材５０は、留め具本体１の挟持空間Ｓよりも大きく形成されている。

30

【００３７】

なお、上記実施形態において、軟性部材１１は、閉止部材１２側に装着されているが、挟持空間Ｓ側に突出し、保持具１０と閉止部材１２との間に装身具本体２を着脱可能であれば、保持具１０側に取付けられていてもよい。何れの側に設けられている場合にも、軟性部材１１を挟持空間Ｓ側のみに配置可能なコンパクト形状に設けるようにしてもよい。この場合、図示しないが、例えば、閉止部材に係止孔、軟性部材にこの係止孔に係止可能なストッパ片を設けるようにすれば、これらの係止により軟性部材を閉止部材に位置決め固定可能となる。これによると、軟性部材の材料を少なくし、取付けも容易になる。さらに、バネに軟性部材への固定用の折り曲げ部を設ける必要もなくなるため、バネを加工するときの自由度も向上する。

40

【００３８】

軟性部材１１は、適度の摩擦抵抗を発生可能な材質であれば、シリコン以外の材料であってもよく、例えば、ゴムにより形成してもよい。本実施形態では、軟性部材１１が長尺状に形成され、閉止部材１２のほぼ全体に渡って配置されているが、装身具本体２を挟持可能であれば、閉止部材１２の先端側付近のみに配置可能な形状であってもよい。

【００３９】

図示しないが、装身具本体２は、チェーン状に限らず、例えば、紐状などの適宜の装飾性を有するものであってもよい。装飾部材５０は、装身具本体２に着脱可能、或は一体に設けられていたり、又は、省略されていてもよい。

【００４０】

50

さらに、留め具本体 1 は、保持部 2 0 と閉止部材 1 2 との間に軟性部材 1 1 を介して挟持空間 S に装身具本体 2 を挟持する留め構造であれば、適宜の形状に設けたり任意の装飾を施すこともでき、装身具本体 2 の太さに合わせて挟持空間 S の大きさを適宜設定してもよい。

【0041】

続いて、本発明の装身具用留め具の上記実施形態における作用を説明する。

上述した留め具本体 1 を身体に装着する際には、先ず、図 1 において、留め具本体 1 と装身具本体 2 との係止を外した状態で、留め具本体 1 と装飾部材 5 0 とを身体の前（胸部、腹部側）に位置させ、留め具本体 1 の両端の長さを調整しながら装身具本体 2 を首に掛けるようにする。

10

【0042】

次に、図 3（a）、図 4（a）の閉止部材 1 2 と保持具 1 0 とを指でつまむように持ち、これらをねじりコイルばね 1 3 の弾性力に抗して押圧することで、図 4 において、閉止部材 1 2 を軸着部 2 8 を中心に右回転させ、閉止部材 1 2 の上面側が保持具 1 0 の上面付近と略同じになる程度まで開口部 2 1 を開口させる。このとき、閉止部材 1 2 と保持具 1 0 とを片手の指の軽い力で容易に開操作可能になっている。ねじりコイルばね 1 3 は、図 4（b）に示すように、その自由端部 4 1 が保持具 1 0 内周の湾曲部位に沿って変形して弾発力を発揮可能になっている。

【0043】

この状態で、装身具本体 2 の装着箇所を開口部 2 1 から落とし込むように装入すれば、装身具本体 2 が閉止部材 1 2 上面の曲面部位を滑るように保持部 2 0 の位置までスムーズに到達する。このため、装身具本体 2 の留め位置を指で把持し、開口部 2 1 の留め位置まで案内する必要がない。装身具本体 2 の保持部 2 0 への案内後には、閉止部材 1 2、保持具 1 0 から指を離して押圧を解除すれば、バネ 1 3 の弾発力で閉止部材 1 2 が軸着部 2 8 を中心に左回転し、挟持空間 S 内において保持部 2 0 と軟性部材 1 1 とにより装身具本体 2 を挟着する。このように、片方の手で閉止部材 1 2 と保持具 1 0 とを開操作しつつ、他方の手で装身具本体 2 をその留め位置で開口部 2 1 から案内させることによりワンタッチで簡単に装着できる。

20

【0044】

装身具本体 2 の装着後には、バネ 1 3 の弾発力に加え、軟性部材 1 1 が有する弾性力と摩擦抵抗とにより装身具本体 2 を軟性部材 1 1、保持部 2 0 の間に強固に保持し、すべりも抑える。これにより、装身具本体 2 を成す鎖素子 2 a の太さが異なる場合でも、その太さに応じて強い挟持力を発揮して装着性を保持できることから汎用性に優れ、仮に、装着後に外力が加わったとしても、留め具本体 1 と装身具本体 2 とのずれや脱落を防止して装着状態を維持する。装身具本体 2 を軟性部材 1 1 と保持部 2 0 との間に挟んだ後に、その挟持部分が外方に膨らむことがなく、留め具本体 1 のコンパクト性を維持する。

30

【0045】

留め具本体 1 は、全体が滑らかな曲線形状であることから、装身具本体 2 との一体性が向上し、この装身具本体 2 とともに身体に沿って人間工学的にフィットする。軟性部材 1 1 を装着した閉止部材 1 2 を保持具 1 0 の内部に収納しつつ全体を細くしながらコンパクト化でき、外方に尖った突起部を有することもないために装着の邪魔になることがなく、衣服や頭髮に引っ掛かりや誤操作も防止できるなど、機能美に優れている。

40

【0046】

さらに、装着時や装着後に装身具本体 2 の留め位置や左右の長さを簡単に調節でき、この場合、前述の場合と同様に閉止部材 1 2、保持具 1 0 を指でつまんで押圧力により装身具本体 2 への挟圧力を解除し、この状態で装身具本体 2 を保持部 2 0 にスライドさせて取付位置を調整できる。このように装身具本体 2 を取外すことなく簡単に調節可能であり、装身具本体 2 と軟性部材 1 1 との摺動を抑えることで装身具本体 2 が傷ついたり、軟性部材 1 1 の消耗を抑えることができる。

【0047】

50

閉止部材 1 2 をねじりコイルばね 1 3 で閉止方向に常時付勢していることで、閉止部材 1 2 が自然に緩んで開口部 2 1 が開口することを抑え、装身具本体 2 の抜けを防止する。このようにねじりコイルばね 1 3 の弾発力を利用して装身具本体 2 を挟持しているため、閉止部材 1 2 を繰り返し開閉操作した場合にも挟持力を維持する。通常時においては、閉止部材 1 2 の先端側が開口部 2 1 の内側から係止していることで、この閉止部材 1 2 にねじりコイルばね 1 3 の弾発力が加わっているにもかかわらず、閉止部材 1 2 の外方への突出を防止する。

【0048】

軟性部材 1 1 を扁平形状に形成し、閉止部材 1 2 の内側に包囲しながら嵌め込んだ構造であるため、プレス加工等により閉止部材 1 2 の成形加工と同時に軟性部材 1 1 をこの閉止部材 1 2 の内側の所定位置に固着できる。しかも、軟性部材 1 1 の板状部 3 0 を長尺状に形成し、この板状部 3 0 を閉止部材 1 2 の内側に嵌め込んでいるため、軟性部材 1 1 と閉止部材 1 2 との接触面積を大きくして固着後の軟性部材 1 1 のずれを防止し、繰り返しの使用に対する耐久性が高くなる。さらに、生産性や組立性、加工性もよい。

【0049】

図 6 においては、本発明における装身具用留め具の第 2 実施形態を示している。なお、これ以降の実施形態において、前記実施形態と同一部分は同一符号によって表し、その説明を省略する。

【0050】

この留め具本体 6 0 では、保持部 6 1 の内側に溝状部位が形成され、この溝状部位内にシリコンからなる軟性部材 6 2 が収容される。溝部の両縁には、例えば、図示しない複数の爪部が設けられ、軟性部材 6 2 の収容後に、これら爪部が折り曲げられることで軟性部材 6 2 が保持部 6 1 内に固定された状態で装着される。

【0051】

保持部 6 1 への取付後の軟性部材 6 2 の内周側には滑らかなアール面 6 3 が設けられ、このアール面 6 3 により、装身具本体 2 装着用の空隙が設けられる。このように、この実施形態では、軟性部材 6 2 が固定側である保持具 1 0 に装着され、軟性部材 6 2 と閉止部材 1 2 との間に装身具本体 2 が挟持される挟持空間 S が設けられる。

【0052】

保持具 1 0 と閉止部材 1 2 との間には、図示しない板ばねからなるバネが装着され、このバネの弾発力で閉止部材 1 2 が開口部 2 1 を閉止する方向に付勢されている。閉止部材 1 2 をつまむように押圧して開口部 2 1 を開閉することにより、前述の場合と同様に閉止部材 1 2 と保持具 1 0 の軟性部材 6 2 との間に装身具本体 2 を挟持できる。図 6 (a) においては、留め具本体 6 0 の閉止状態、図 6 (b) においては、留め具本体 6 0 の開口状態を示しており、図 6 (a) の閉止状態により、前記の実施形態と同様に装身具本体 2 を強固に挟持可能となる。

本例のように板ばねをバネとして用いた場合、ねじりコイルばねに比較してコストを抑えながらねじりコイルばねと同等の弾発力を発揮可能となる。

【0053】

図 7 においては、本発明における装身具用留め具の第 3 実施形態を示している。

この留め具本体 7 0 は、図 6 の留め具本体 6 0 を長さ方向に短く設けたものであり、この場合にも、図 7 (a) の閉止状態、図 7 (b) の開口状態に示すように、図 6 の留め具本体 6 0 と同様に、閉止部材 1 2 をつまむように押圧して開閉部を開閉操作でき、この場合、図 6 の止め具本体 6 0 に比較してコンパクト化できる。

【0054】

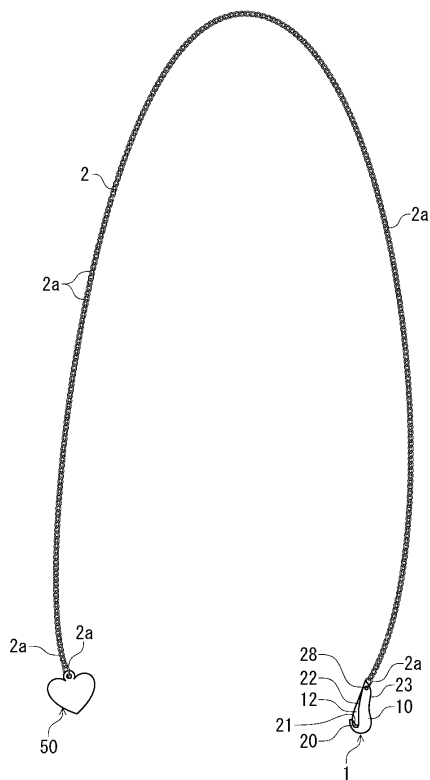
以上、本発明の実施の形態について詳述したが、本発明は、従来のような留め具の不便さが解消され、使用者が満足する留め具の提供が可能となり、特に、前記実施の形態記載に限定されるものではなく、本発明の特許請求の範囲に記載されている発明の精神を逸脱しない範囲で、種々の変更ができるものである。

【符号の説明】

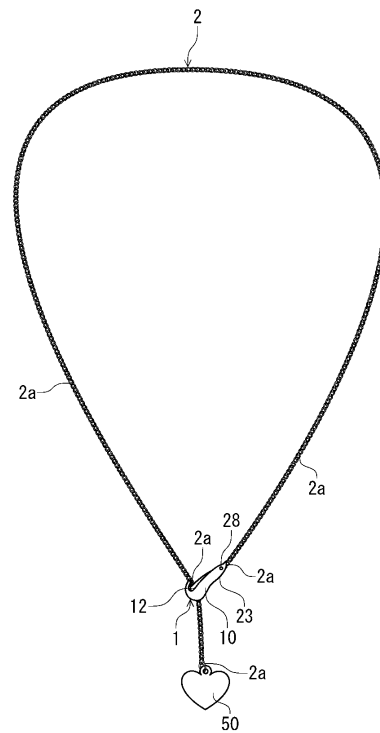
【0055】

- 1 留め具本体
- 2 装身具本体
- 10 保持具
- 11、62 シリコーン（軟性部材）
- 12 閉止部材
- 13 ねじりコイルばね（バネ）
- 20、61 保持部
- 21 開口部
- 28 軸着部
- 50 装飾部材
- S 挟持空間

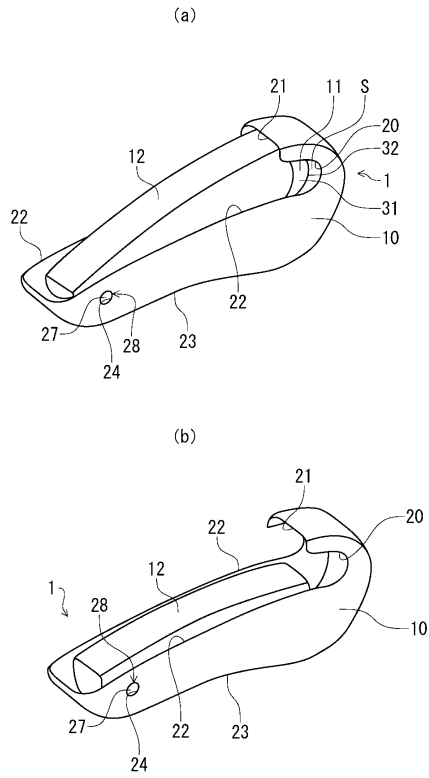
【図1】



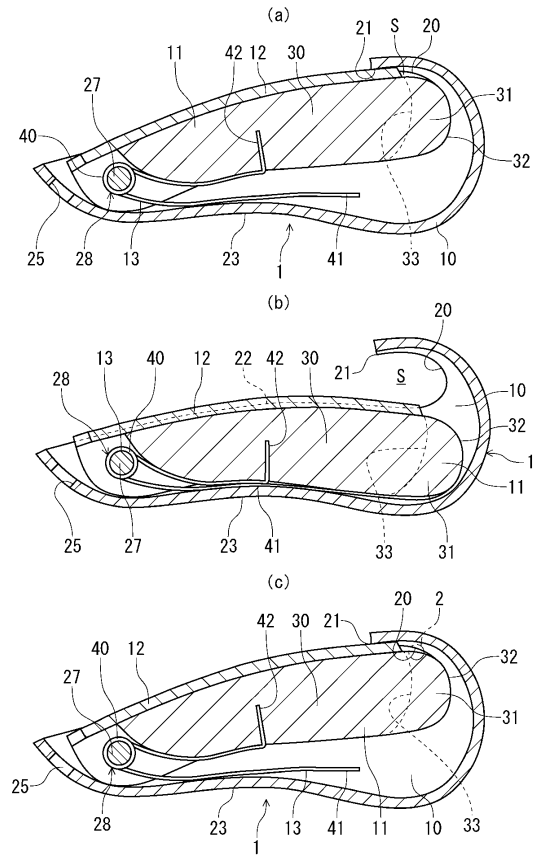
【図2】



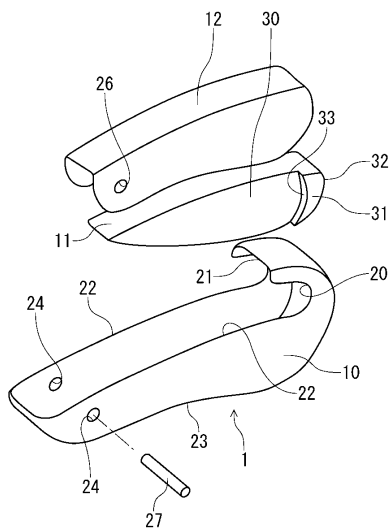
【図 3】



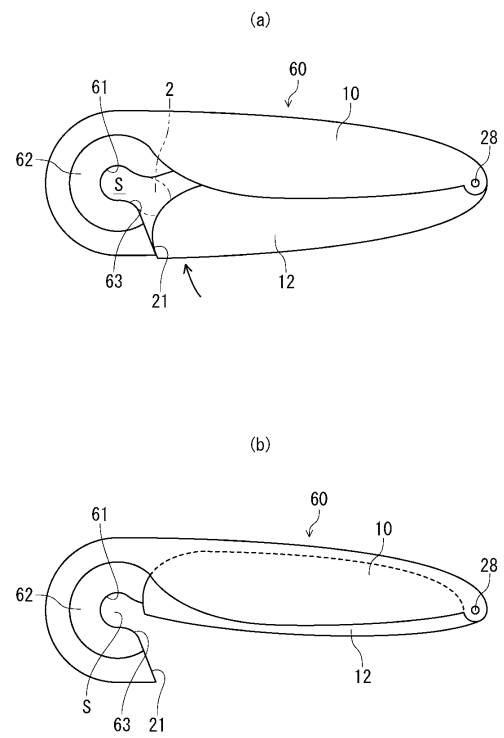
【図 4】



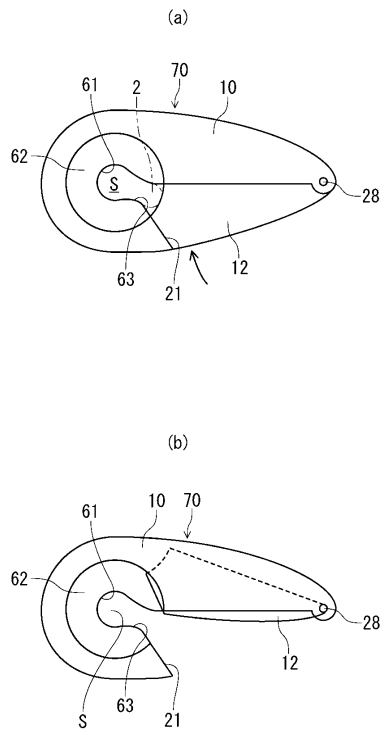
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 4 4 C 2 5 / 0 0